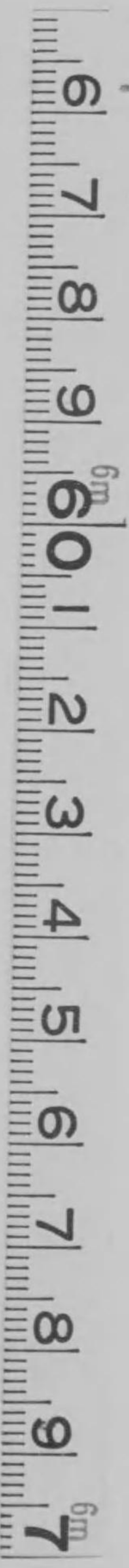


393
388



始 ←

傳書鳩ノ話

關西傳書鳩研究所

椿本莊一著

關西傳書鳩研究所藏版

393-388



傳書鳩ノ話

關西傳書鳩研究所 椿本莊一著

關西傳書鳩研究所



はしがき

本書は傳書鳩を飼つた経験のない方々に「一體傳書鳩とは如何なるものか」と云ふ事を簡単に説いて私が研究した聊かの意見を書いたのですから讀者諸氏に聊かでも参考となり且つ此が御利用せらるゝ様になれば著者の満足する所ですから少しも早く一人も多く傳書鳩を飼つて而かも其が有効に使はれる事を希望致します。

因に歐米各國では近時非常に盛んになつて最近佛國では一羽の鳩に金貨一千法を越ゆるものが少くないのであります最近大阪好鳩會で東京大阪間の競翔をやつた決果第一着鳩は一千圓と云ふ高價を云はれて居ます。

以上の様な次第で當研究所は専ら鳩種改良を思ひ立ち併せて此等愛鳩家達の鳩研究に聊かでも力になり度いので當所が出来たのですから何卒無御遠慮御利用下さる様且つ鳩に關しての色々の試みやら記事の御投稿を希望致します

月 日

於南海沿線岸の里
著 者 識

傳書鳩ノ話 目 次

- 一、傳書鳩ハ如何ナ場合ニ使フカ……………一
- 二、傳書鳩ガ何故歸ルカ……………三
- 三、鳩舎ヲ如何ナ風ニ造ルカ……………四
- 四、傳書鳩ハ如何ニシテ飼フカ……………六
- 五、傳書鳩ノ繁殖育離ハ如何スルカ……………一
- 六、放鳩ヲ如何シテスルカ……………二
- 七、傳書鳩ノ注意ハ如何スルカ……………二
- 八、鳩ガ信書ヲ如何シテ運ブカ……………三
- 九、如何シテ鳩ヲ運搬スルカ……………三
- 一〇、然ラバ如何ナ鳩ガ良イノカ……………六

附錄 口繪ノ目次

附錄 傳書鳩ノ理想的形態……………

第一圖 百圓内外デ出來ル鳩舎正面圖……………

第二圖 同 平面圖……………

第三圖 同 側面圖……………

第四圖 一、入口構造……………

二、トラップ……………

三、巢房構造……………

第五圖 一、亞鉛製飲水器……………

二、棲架……………

第六圖 一、携帶用貳羽入鳩籠……………

二、通信紙ト信書管……………

第七圖 登山用鳩籠ト休憩籠……………

附錄 一、好鳩會飛翔成績表(十年中)……………二五

二、同 (十一年中)……………二六

三、海軍航空隊追濱—八丈島間成績表……………二九

欠

一、 欠部

二、 欠部

三、 欠部

四、 欠部

五、 欠部

六、 欠部

七、 欠部

八、 欠部

九、 欠部

十、 欠部

十一、 欠部

十二、 欠部

十三、 欠部

十四、 欠部

十五、 欠部

十六、 欠部

十七、 欠部

十八、 欠部

十九、 欠部

二十、 欠部

二十一、 欠部

二十二、 欠部

二十三、 欠部

二十四、 欠部

二十五、 欠部

二十六、 欠部

二十七、 欠部

二十八、 欠部

二十九、 欠部

三十、 欠部

三十一、 欠部

三十二、 欠部

三十三、 欠部

三十四、 欠部

三十五、 欠部

三十六、 欠部

三十七、 欠部

三十八、 欠部

三十九、 欠部

四十、 欠部

四十一、 欠部

四十二、 欠部

四十三、 欠部

四十四、 欠部

四十五、 欠部

四十六、 欠部

四十七、 欠部

四十八、 欠部

四十九、 欠部

五十、 欠部

五十一、 欠部

五十二、 欠部

五十三、 欠部

五十四、 欠部

五十五、 欠部

五十六、 欠部

五十七、 欠部

五十八、 欠部

五十九、 欠部

六十、 欠部

六十一、 欠部

六十二、 欠部

六十三、 欠部

六十四、 欠部

六十五、 欠部

六十六、 欠部

六十七、 欠部

六十八、 欠部

六十九、 欠部

七十、 欠部

七十一、 欠部

七十二、 欠部

七十三、 欠部

七十四、 欠部

七十五、 欠部

七十六、 欠部

七十七、 欠部

七十八、 欠部

七十九、 欠部

八十、 欠部

八十一、 欠部

八十二、 欠部

八十三、 欠部

八十四、 欠部

八十五、 欠部

八十六、 欠部

八十七、 欠部

八十八、 欠部

八十九、 欠部

九十、 欠部

九十一、 欠部

九十二、 欠部

九十三、 欠部

九十四、 欠部

九十五、 欠部

九十六、 欠部

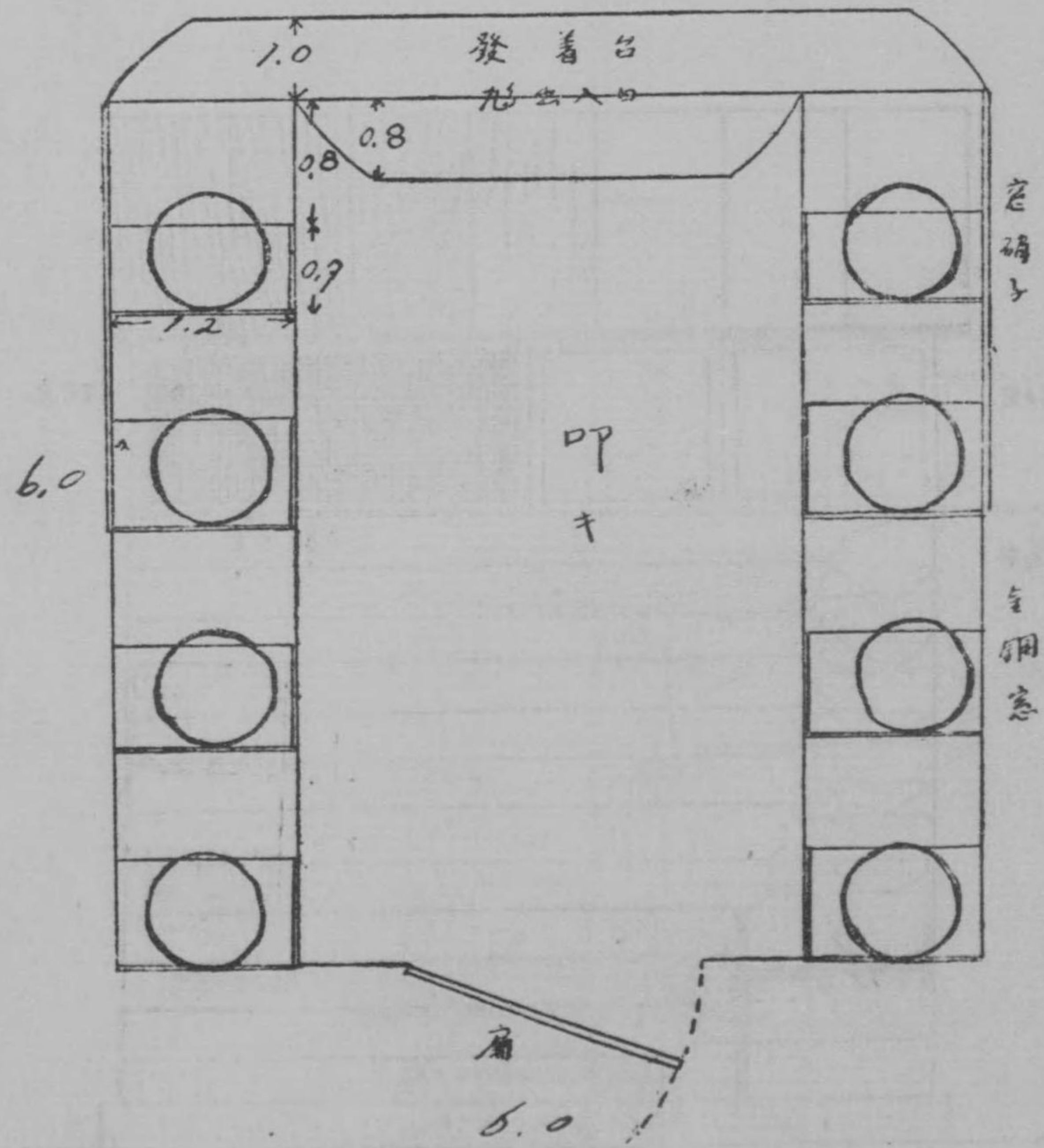
九十七、 欠部

九十八、 欠部

九十九、 欠部

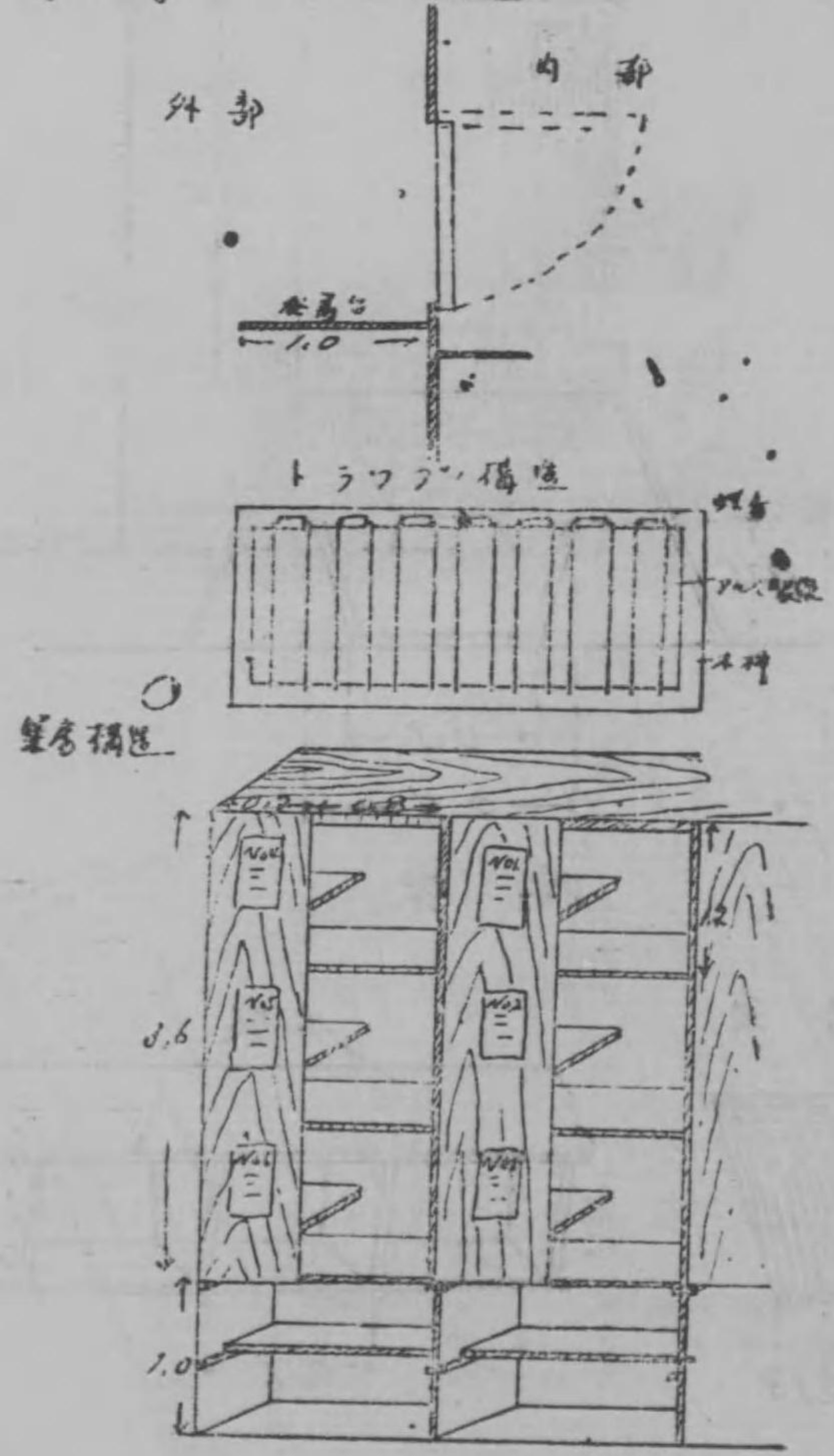
一百、 欠部

第二圖 平面

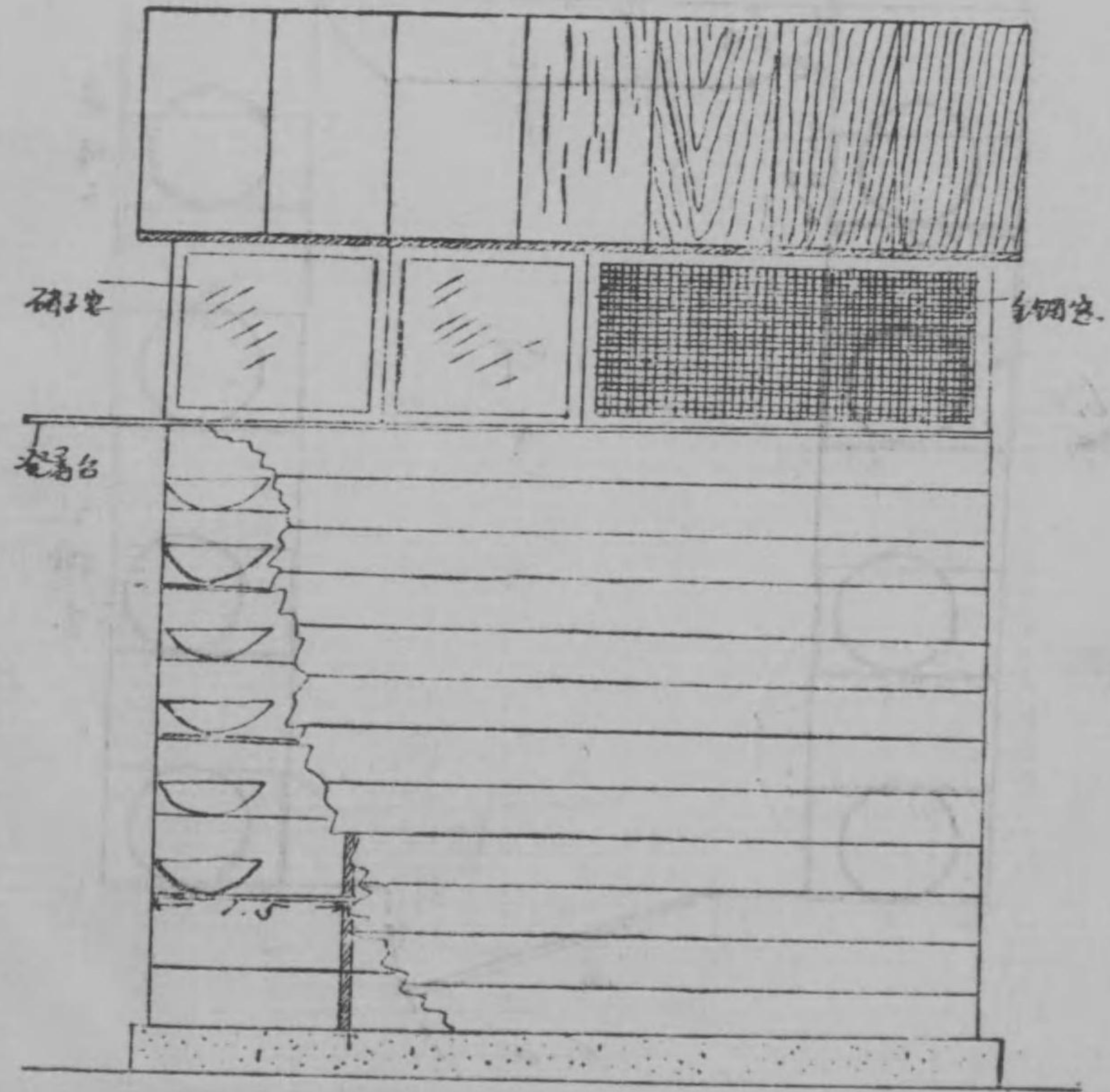


欠

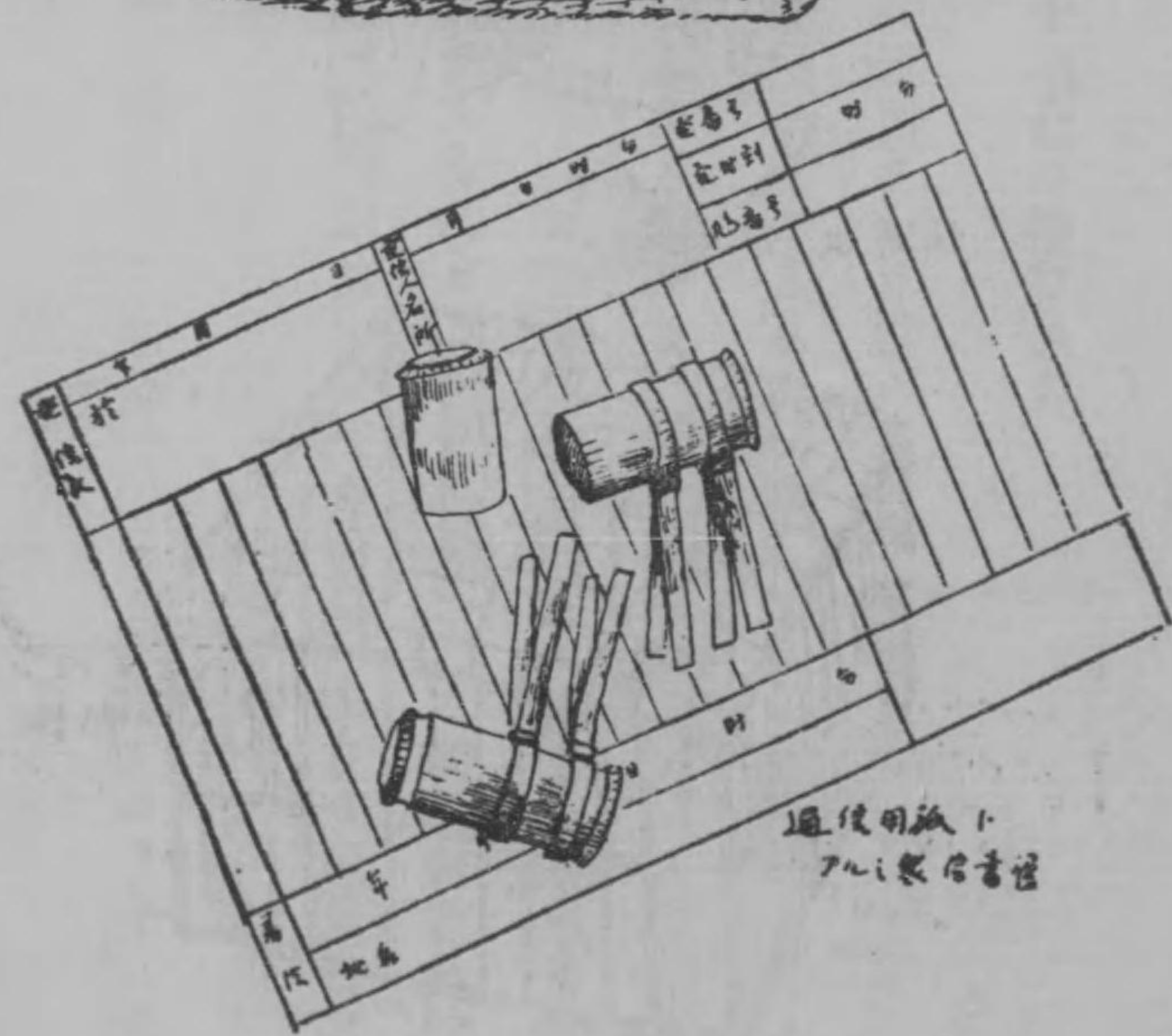
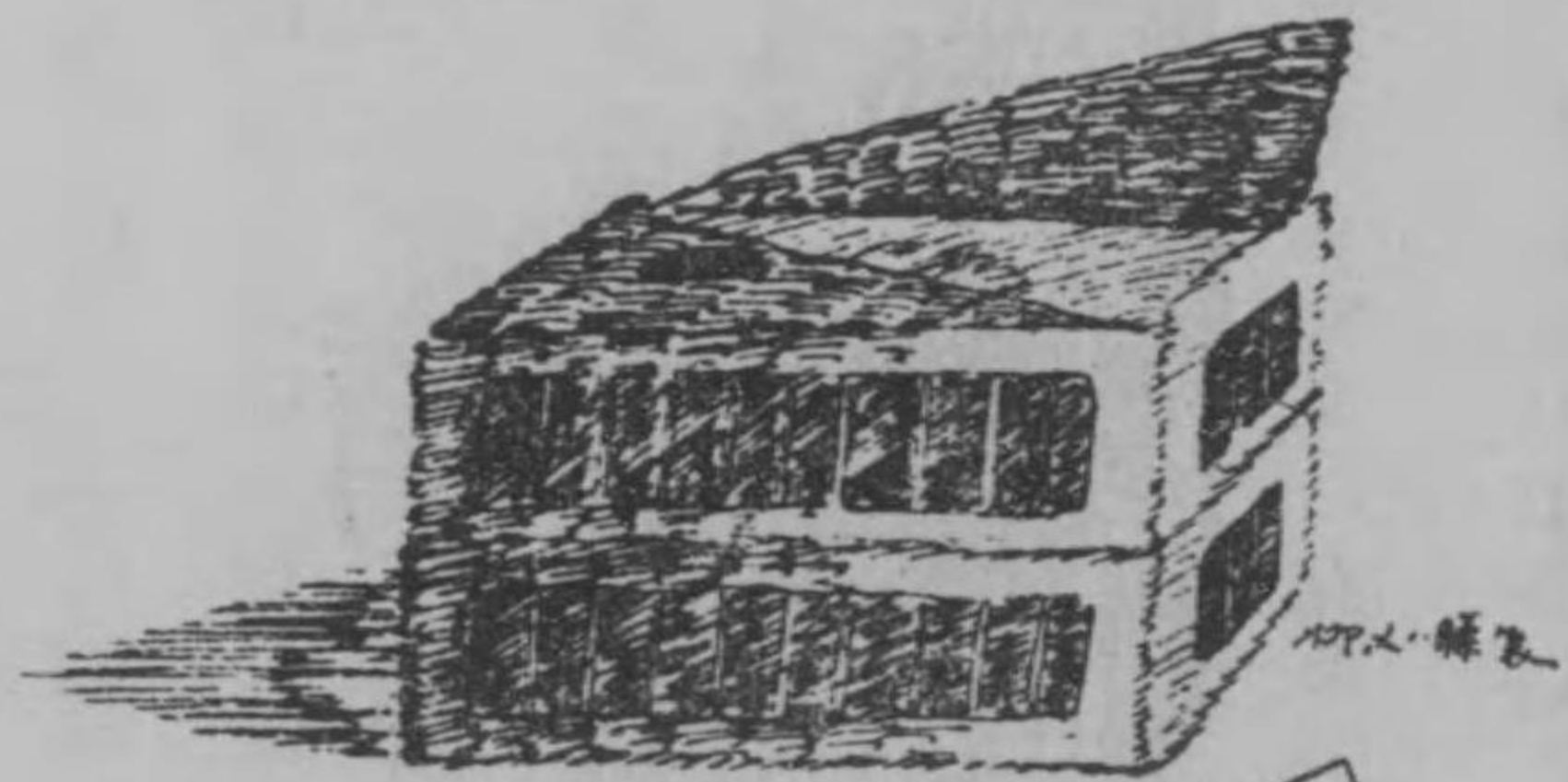
第四回 スロノ構造



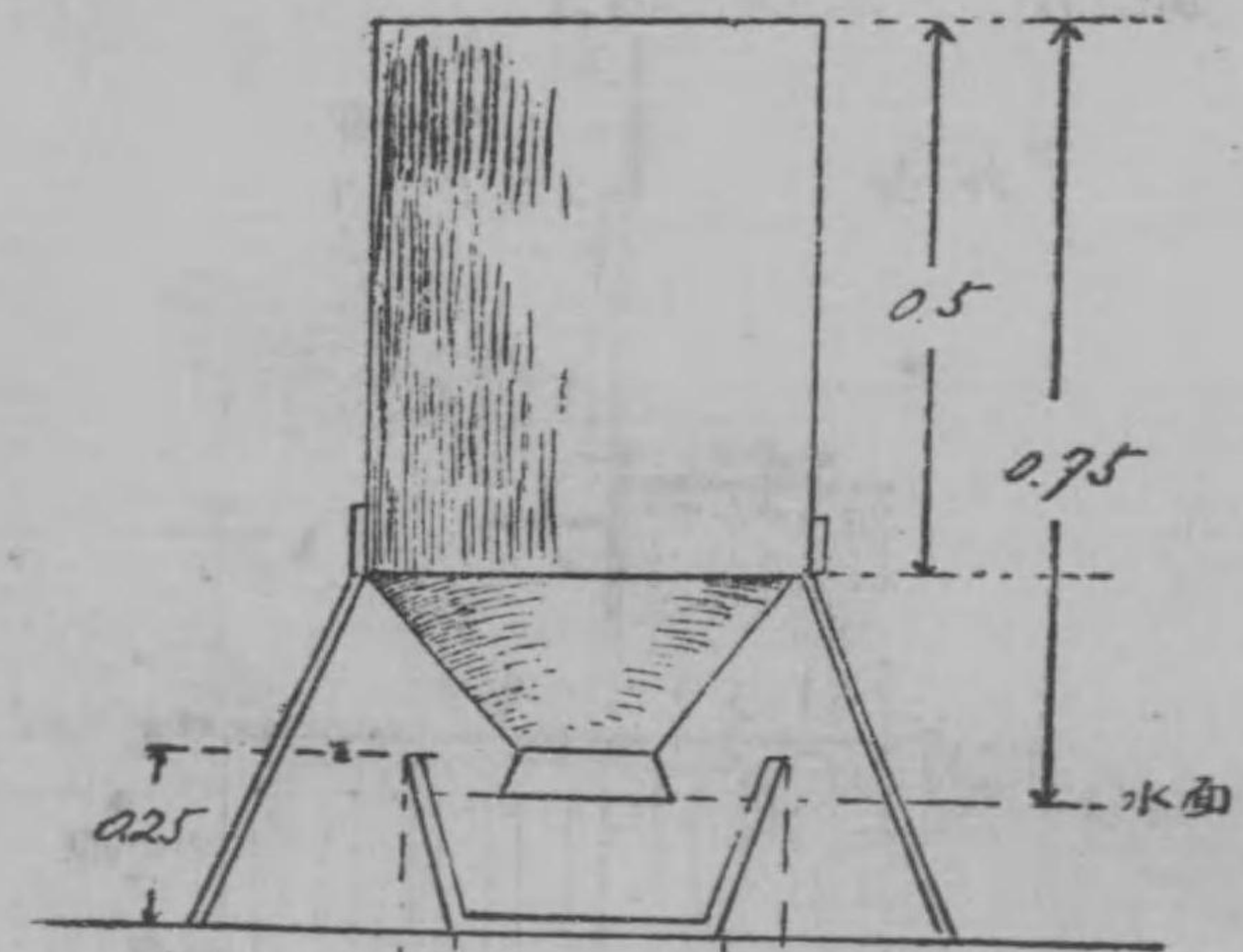
第三回 側面



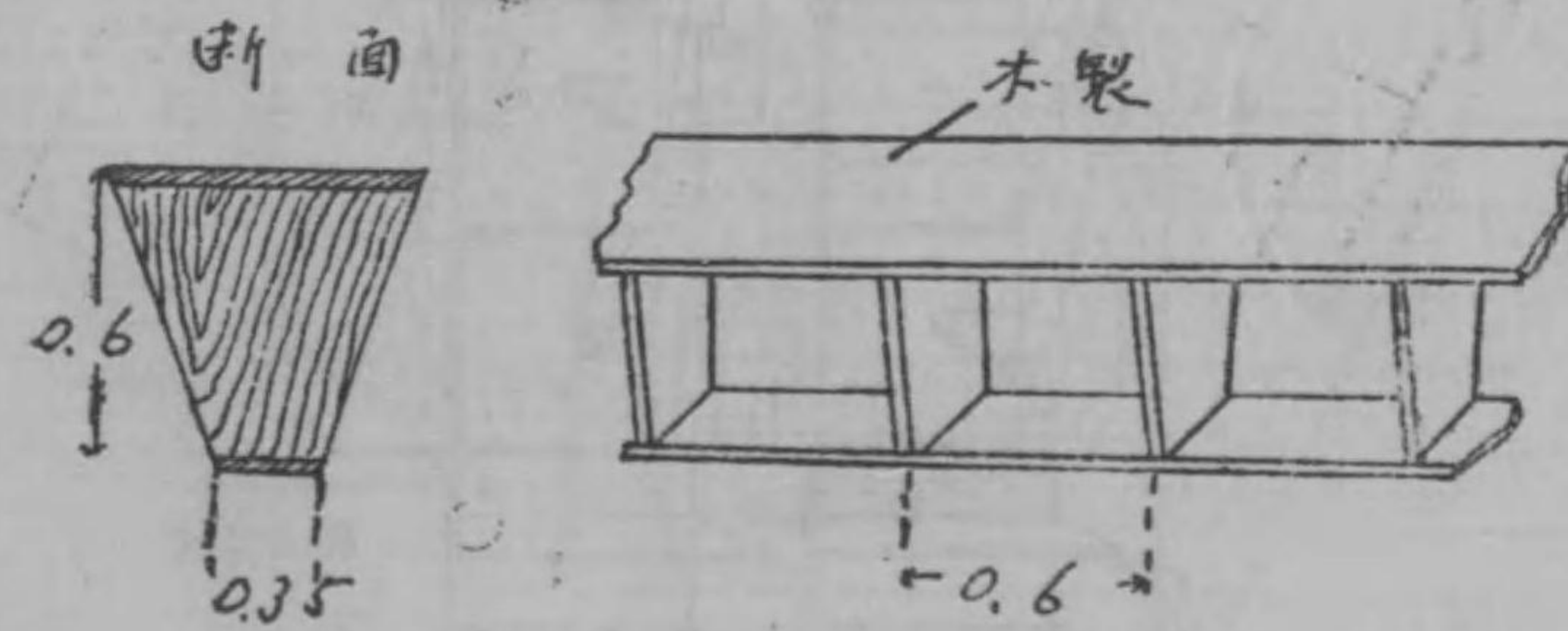
第六回 携带用机



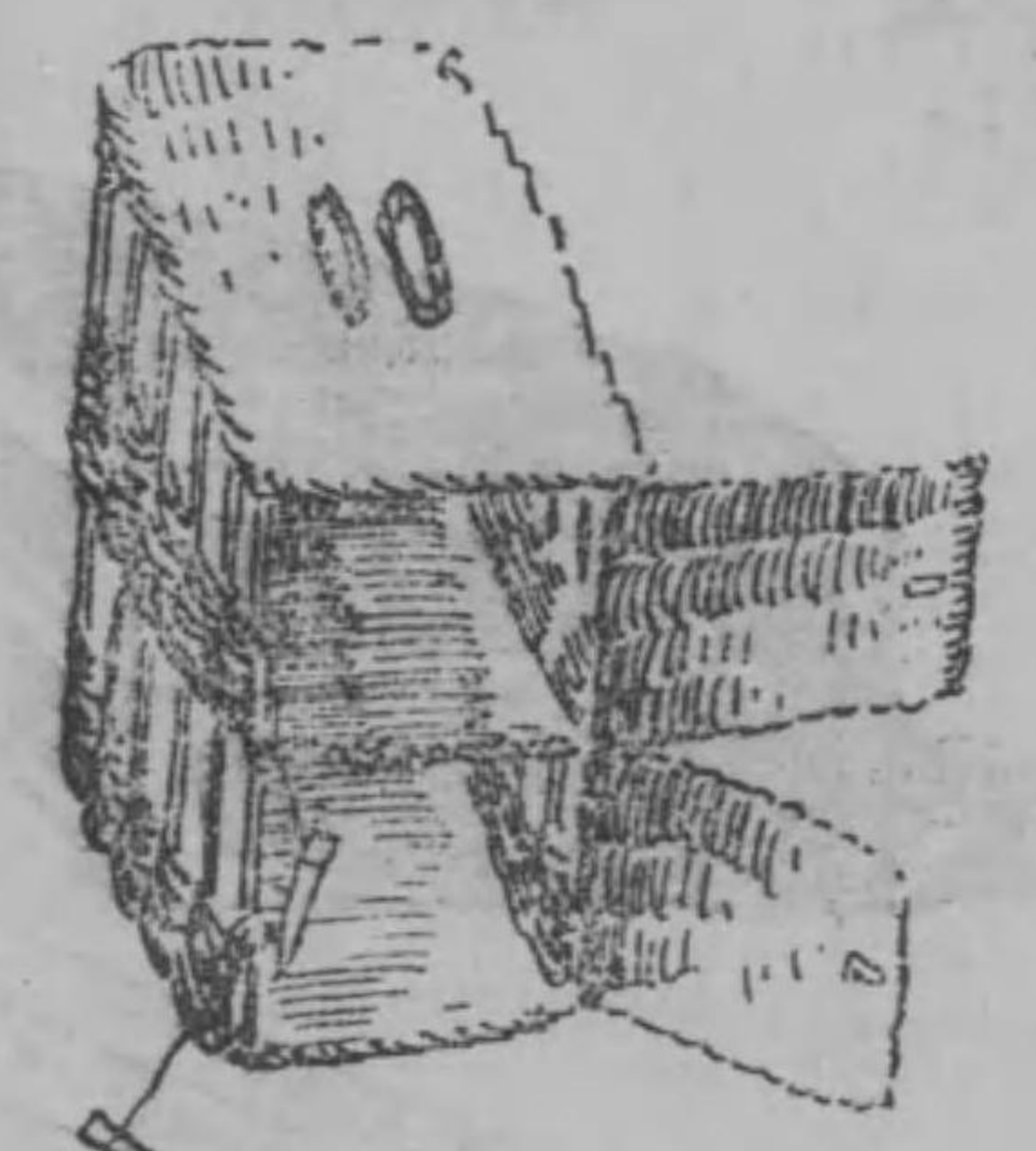
第五回 亜鉛製飲水器



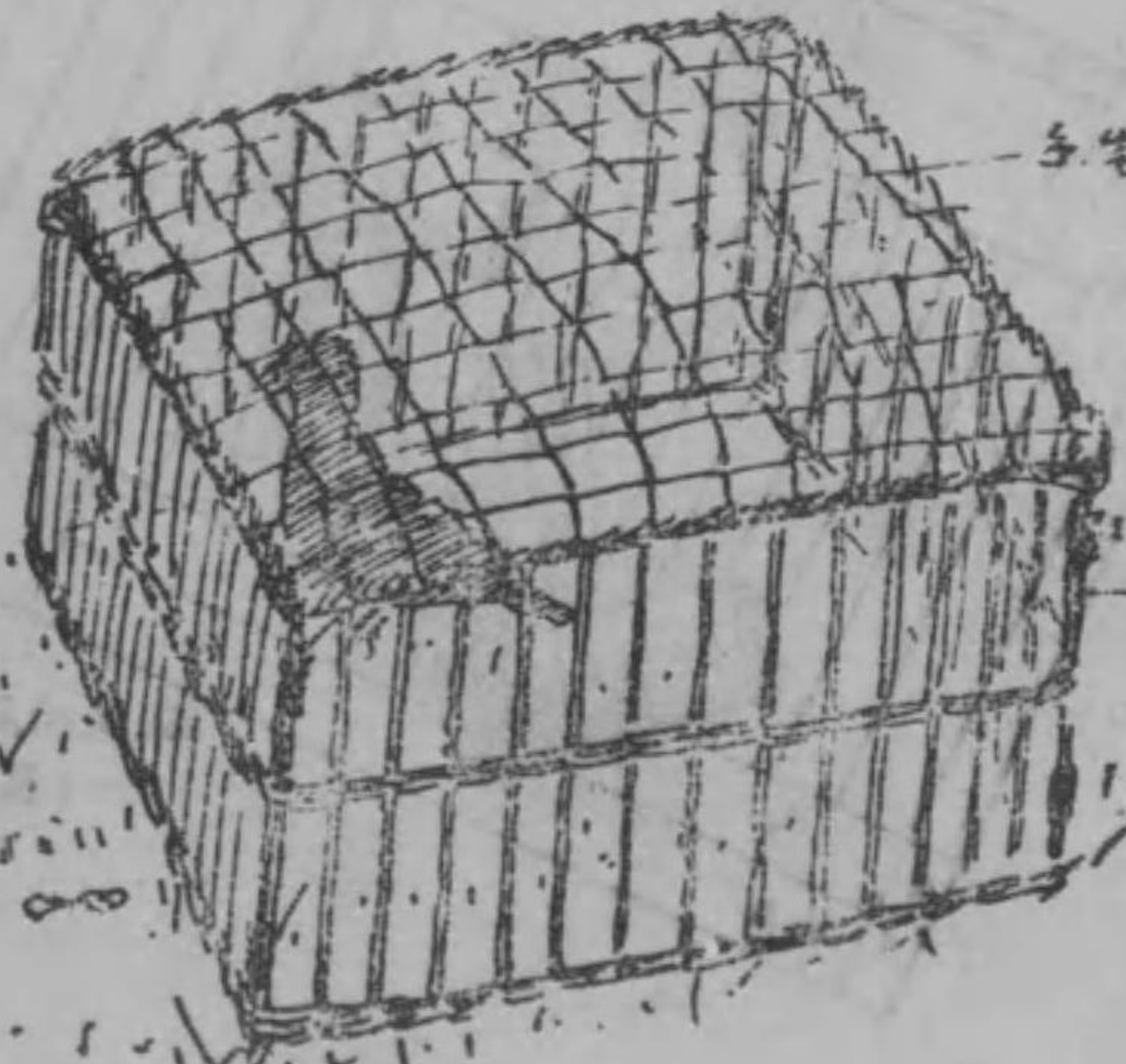
樽架



第七回 登山用カ



折疊式 休憩箱



手袋網

一、傳書鳩ハ如何シナ場合ニ使フノカ

鳩ガ諸種ノ通信用トシテ、盛ンニ使用サレテ居ル事ハ、幾多ノ事實ニ依ツテ知ラレテ居ル處デ、昔カラ今ニ至ル迄、軍用鳩トシテ軍用ニ使用セラレタ例ハ、此レ又能ク諸君ガ熟知ノ事柄デアリマス。西洋歴史ヲ見ルト、彼ノ「ヴェルダン」戰役中ニ、鳩ガ威大ナル効ヲ奏シタ事、又其シテ「ソンム」戰役中、最近ニ於テハ歐州大戰ニ、歐米諸國ガ競ツテ鳩ヲ使用シテ、著大ナル奏効ガアツタ事等デ、文明ノ發達ニ伴ヒ、諸種ノ進歩改良シタ通信機關ヤ、攻撃、防禦用具ガアリナガラ、尙且ツ鳩通信ヲ、俟タネバナラヌト云フト、其間ニ何ダカ、矛盾ガアル様ニ、思ハレマスガ、決シテ左様デハナカツタノデス。乃チ、電話線ヲ切斷サレタ場合連絡ヲトル爲メニ、或ハ鐵道ヲ破壊サレタ時、又ハ傳令、斥候ガ派出サレタ時、鐵道、電話ノ不通ヲ補ヒ、飛行機上ニ携行シテ不事ノ出來事ヲ、出發点ニ向ケテ報告シ、救援ヲ求ムル等ノ場合ニ偉勳ヲ奏

シテ居マス、其他現時盛シニ實用的諸種ノ用ニ使用セラレテ居ル例ヲ、擧ゲマス、ト次ノ様デス。

- 一、漁獵者、就中捕鯨、鯨船ニ携行シ絶エズ陸上ト、通信スル時。
- 二、交通不便ノ地ヨリノ通信。
- 三、警察ニ於テ獲物ヲ搜索若クハ追跡中。
- 四、島嶼間ノ連絡。
- 五、市外ヨリ市内へ電話輻輳ノ爲容易ニ、通話出來ヌ時。
- 六、登山旅行者ガ携帶シテ、其安否ヲ出發点ニ報ズル時。
- 七、新聞社員ガ、適時探訪地ヨリ迅速ニ記事ヲ送ル時。
- 八、近時寫眞ヲ縮少シテ、送附スル時。
- 九、娛樂用トシテ競翔ヲスル等。
- 十、全上旅行中家族へノ通信。

以上ノ外諸種ノ場合ニ使用サレテ居マス。

二、傳書鳩ガ何故歸ルカ

鳩ノ其ノ巢ニ歸ルト云フ事ハ、本能デアツテ、單ニ鳩ノミデハナイ、渡鳥中ノ鴈ヤ燕等モ此亦歸巢性ヲ有シテ居ルノデアアルガ、此等ノ鳥類デ特ニ歸巢性ノ、強烈ナ鳩ヲ吾人等ガ使フノデアアル、鳩ノ中デモ俗ニ云フ、寺鳩等モ訓練サヘ施セバ、アル程度迄ノ通信ハ無論有効デアアル事ハ著者ガ幾度ノ、實驗ニ依テモ明カデアアルガ、傳書鳩ハ在來鳩ノ歸巢性ノ卓越シタ者ヨリ、漸次改良、淘汰シテ、其能力ヲ特別ニ發達サセテ得タノデスカラ、此後益々使鳩ヲ改良、淘汰シタナラバ、現在ヨリ一層能力ノ良イ鳩ガ出來ルニ違ヒナイト云フ見地カラ、研究所デハ専心改良進歩ニ就テ研究シテ居ルノデス。傳書鳩ノ歸巢能力ト云フ事ニ就テハ、専門家達ガ、色々ニ解釋シテ居ル様デスガ某氏ハ卓越セル視力ニ依ツテ遠距離通視ガ出來ル爲ニ、又某ハ記憶ニ依ツテ、歸ルノ

デアルト云ハレテ居ルガ然シ著者ハ只今能力ニ就テ斷定スル事ハ見合シマセウ、何故ナラバ現在ノ學說ヲ解決スルニハ尙餘リノ距離ガアルカラデス、兎ニ角、吾人ガ此能力ヲ益々助長シテ、完全ニ使用サヘスレバ宜シイノデアリマス、要スルニ鳩ハ夫婦關係ト食餌ノ欲シサニ歸巢性ヲ本能以上ニ確實ナラシメルト云フ事ハ、疑ハナイ事實デアリマス。

三、鳩舎ヲドンナ風ニ造ルカ

鳩舎トシテ撰定スル場所ハ、可及的、電線ノ附近ニアル場所ヲ避ケネバナラヌ、此レハ鳩ガ飛翔中ニ線ニ衝突シ、負傷スル悞レガ、アルカラデアル、若シ此ンナ場合ニハ、電線ニハ何か見易イ目印ヲ附シテ置ク方ガヨロシイ、希望ヲ云フナラバ、鳩舎カラ約五六十米突以内ニハ鳩舎ヲ瞰下シタリ、且飛翔ノ邪魔ニナル様ナ、大樹木ノ存在ヲ、僻ケル方ガ宜シイ、而シ此ハ單ニ理想ニ止マル事デ、凡テノ場合ニ、適要出來マ

セスカラ、臨機ノ處置ヲ採ラネバナリマセンガ、一般ニ具備スベキ要件トシテハ、次ノ様ナ事ガ必要デアル。

一、鳩舎入口ヲ設クベキ方向ハ、地方ニ依ツテ、斷定ハ出來マセンガ一般ニ北、東北、及南ノ間ニ面セシメルト良イ、而シ原則トシテ恒風ニ向フ事ハ、僻ケネバナリマセン、其シテナルベク高所ヲ好ムノデスカラ、若シ在來ノ家屋ヲ其儘使用スルナラバ若干家根裏ヲ、改造シテ鳩舎トシテモ良イ考ヘデス。

二、鳩舎ノ内部ハ常時乾燥シテ、日光ノ射入充分ト換氣ガ完全ニ出來レバ理想的デス。

濕氣ハ、鳩ノ罹病中ノ多數原因ニナルノデスカラ、特ニ注意シテ床ハ板敷ニスレバ宜シイガ、消毒、掃除ヲ容易ナラジムル爲、又保存ノ爲ニハ「凝土床」ガ良シイ。然シ鳩ニ快感ヲ與ヘ、又迅速ニ糞ヲ乾燥シ、脚ニ附着スル事ヲ防グ爲ニハ、細度中等ノ砂ヲ床上ニ撒布スルト宜シイ、採光ヲ欲スル爲ニ鳩舎側面上

部ヲ、硝子窓ニスルト良イノデス。僅カニ百圓内外デ出來ル鳩舎圖ヲ一寸口繪ニ附シテ置キマシタカラ圖ニ就テヨク參照シテ下サイ其レガ山岳地方ナラバ材木ヲ得ルニ便利デスカラ今少シ安價ニ出來ル事ト思ヒマス。

四、傳書鳩ハ如何ニシテ使フカ

野生ノ草花モ自然デハ適當ナ土ニ培カハレテ、必要ニ應ズル丈ケノ肥料ヲトリ、丈夫ニ生活シマスガ一度園藝用又ハ觀賞用植物トシテ、吾人ノ庭ニ作ラレルト、非常ニ弱クナルト同様ニ鳩モ一旦人ニ飼育サレテカラハ、此ノ野生的性質ガ漸次消滅シテ、遂ニ細心ノ注意ト保護ガ必要トナツテ來マス、其レデ鳩舎内ハ清潔ニシテ寄生虫傳染病ノ發生ヲ豫防セナイト、忽チニシテ、鳩舎内全体ノ鳩ヲ斃ス事ニナリマス。

窓ヤ入口カラ、寒風ガ絶エズ吹込ムト感冒ニ罹易イカラ、注意ヲ要シマスガ、第一飼料ノ分量ト飼與時間ガ、確實ニ行カスト、消化器ヲ惡クシマスカラ、運動ノ調節ト

相俟ツテ、飼料ハ特ニ適當ニヤラネバナリマセン、大体次ノ様ナ事項ヲ心得テ置ク事ガ必要デス。

一、飼料

鳩ノ飼料トシテ、小麥、大麥、燕麥、蕎麥、麻實、粟、玉蜀黍、フエーブ鳩豆、玄米、油菜種、白豌豆、等各種ノ、穀類ヲ要シマスガ季節ト鳩ニ依ツテ否適ガアリマスガ以上ノ中、麻實及燕麥ハ體溫ヲ高メマス、小麥、及玉蜀黍、ハ清涼食品トシテ、鳩ハ玉蜀黍ヲ好ミマスガ、多ク與ヘルト肥滿シタリ玉蜀黍病ヲ、誘起シマスカラ多量ハ不可デス。旅行カラ歸ツタ時等ニ、與ヘルノハ宜シイ、傳書鳩ノ最良飼料ハ收穫後、一年ヲ經過シタ、小蠶豆、鳩豆、ジャラ豆ノ等分ニ、混和シタモノガ宜シイ。

原則トシテ、飼料ハ消化シ易ク、且吸收シ易ク其シテ鳩體構造ニ、適スル飼料ヲ配合スルト良ロシイ、其レニ各種ノ飼料ヲ與ヘル事ハ煩雜デ手が要リマスカラ、ナルベク簡單ナ種類ニシテ置ク方ガ宜シイ、而シ其食物ニ含マレテ居ル脂肪ト、

含窒素物トノ比ガ1ト3.5乃チ脂肪ノ三倍半ノ、含窒素物ヲ有スル事、而シテ含窒素物ト含水炭素物トノ比ハ、鳩ノ年令、氣候、及運動ノ、多少ニ依ツテ適宜ニ變更セナケレバナラスノデス、其ノ比ハ1ト3乃至7云ヒ換ヘルト、含窒素物ノ三倍乃至七倍ノ含水炭素物が必要デス。

二、日量 分量ハ一定デハナイガ鳩一羽ニ就テ一日白豌豆、及玉蜀黍、小蠶豆、ヲ合シテ三十瓦(約八匁位)乃至四十瓦(約十匁位)デスガ平均約三十五瓦(約九匁位)ヲ與ヘルノデス、而シ鳩ノ肥瘠ニ依ツテ加減セナケレバナリマセン、毎日玄米ヲ日量ノ百分ノ五、亞麻ノ實、又ハ菜種ヲ日量ノ百分ノ十宛、豆類ト玉蜀黍トノ比ハ、豆類百分ノ七〇玉蜀黍百分ノ三〇ノ割合デス其シテ、食餌ヲ與フル時ニハ、一時ニ全量ヲ與ヘル事ハ不可デ、一握宛徐々ニ與ヘルガ宜シイ、左様スルト、鳩ハ餌ヲ食シナガラ、水ヲ飲ミマスカラ、保健上大變宜シイ。

此外ニ鳩ハ非常ニ、鹹イモノヲ好ミマスカラ、食鹽ヲ古煉瓦ノ粉末、黃土、古石

膏、牡蠣末、ニ混ジテ煉リ固メタモノヲ、乾燥シテ鳩舎ニ入レテ置クノデス、此レガ消化ヲ助ケマス此ヲ土鹽ト云フノデス。

其カラ實驗シテ非常ニ健康上有効ナノハ、糠味噌ヲ容器ニ入レテ自由ニ啄マシメルトヨロシイカラ、特ニ御進メシマス。

三、飼料ノ與ヘ方 朝晝夕ノ三度ニシテモ宜シイガ秋カラ冬、春カラ夏迄ハ二回シテ左ノ分量デ與ヘルトヨロシイ。

朝一五瓦(約四匁) 夕二〇瓦(約五匁)

三度ノ場合ハ次ノ様ニスルトイ、ノデス。

朝壹〇瓦 晝一〇瓦 夕一五瓦

麻實、菜種ハ朝夕ニ半量宛ヲ與フル事、時間ハ朝八時正午午後三時トスルトヨロシイ。二四ノ場合ニハ朝八時ト夕四時ニ與ヘルト良シイ

訓練中ハ、四十瓦カラ四十五瓦位ニ、増加スルト良イ、育成期間(雛ヲ育テル間)

ハ餌函ニ、十分ノ穀類ヲ入レテ置クノデス、餌ヲ與フル時ニハナルベク、手ヲ以テ與フル時ハ鳩ガ飼與者ニ、親シミマスカラヨロシイ。

冬期十一月一日以降ハ除々ニ、飼料ヲ増加シテ、一日四十瓦ヨリ四十五瓦迄位ニスルトイ、。

四、飲水ノ與へ方 容水器ハ、毎日洗滌シ、布片ヲ以テヨク拭ヒ毎週一回砂ヲ用ヒテ、磨クトヨロシイ、鳩ハ頻繁ニ飲水スル、動物デスカラ飲水器ノ水ハ絶ヘズ注意シテ水ノ無クナラヌ様又水ガ汚レヌ様ニスルノガ肝心デス末尾ニ附シタ圖ノ様ナ容器ガアリマスカラ、此ヲ用フルト、比較的手數ガ省ケマス、

注意 泉ノ水ハ寒冷ニ過ルノデ鳩ニ與フル前若干時容水器ニ入レ置ク事ガ必要デス

五、穀類ノ撰擇ト注意 酸酵シタリ若クハ微ヲ生ジタ、濕氣ノアル穀類ハ不可デス、又微臭イノモイケマセン、貯藏ニハ通風ノ良イ室ノ上ニ擴ゲテ一週二三回攪伴シテ濕氣ヲ去ツテ貯ヘルト宜シイ。

穀類ハ齒ニテ嚙ミ、其乾燥ヲ検査シ、自カラ破碎スル様ナノハ不良デス。

換毛ノ際ニハ、亞麻ノ實、及蕎麥ヲ毎週二三回日々ノ混合飼料ニ、加ヘルト妙デス。

五、傳書鳩ノ繁殖、育雛。ハ如何スルカ

鶏ハ一羽ノ雄鳥ニ五六羽ノ雌鳥ヲ配スルノガ例デスガ、鳩ハ絶對ニ不可デス、乃チ一夫一婦ノ嚴格ナ制度ニナツテ居マスカラ、雄雌ノ數ハ常ニ平均シテ置ク事ガ、必要ナノデス、前ニモ云ツタ通り、歸巢性ガ起ル重大原因ト考ヘマス。

雌雄交配ニ當ツテ、甚シク形態又ハ色彩ノ、類似ノモノトノ配合ハ避ケル方ガ宜シイ、乃チ其手段トシテ羽毛ノ鮮明ノモノト然ラザルモノ、強壯ナル鳩ト体格矮小ノモノ、古鳩ト若鳩荒キモノト馴レタルモノト配合スルト共ニ眼色ノ異ツタモノヲ交尾セシメルガ宜シイ、交配スルニ嚴重ニ申セバ「マツチングボックス」ト云ツテ交配巢房

ガ入用デスガ簡單ナ鳩舎ナラ在來使用ノ巢房ヲ、此レニ使用シテ差支アリマセン、今交配シ様トスル雌雄ノ鳩ヲ一室ニ入レテ、閉鎖シ水、食餌ヲ與ヘテ置クト兩性間ニ親和ヲ見ル様ニナリマス。

斯クシテ雌鳩ガ雄鳩ニ服從ヲ拒ム場合ニ雄鳩ガ雌鳩ヲ啄打シテ負傷セシムル様ナ時ハ一度雌鳩ヲ巢房カラ出シテ、數時間ノ鳩又前ノ様ニ繰リ返スノデス、左様スルト、遂ニ親和スル様ニナリマス、全ク親和シマスト兩者ヲ巢房カラ出シテ鳩舎内ニ約五寸程ニ切斷サレタ藁ヲ入レテ置クト雌雄協力シテ、石膏製ノ巢皿ニ巢ヲ作りマス、其シテ沈鬱狀ヲ呈シテ遂ニ巢房内ニ引籠リマスト、産卵スルノデスガ、最初第一卵ヲ産ンデ第二卵ハ大抵翌々日ノ午後ニ産ミマス、一回ニ二卵ヲ産ムノガ原則デスガ、時ニハ一卵ノミ、若クハ稀ニ三卵産ム事モアリマス。其シテ、交互ニ抱卵シテ十七日目ニ孵化シ其後ハ、雌雄交互ニ雛ヲ育成スルノデスガ、其間親鳩ハ糜乳ト稱スル、一種ノ乳汁狀ノ液ヲ吐出シテ養フノデスガ日ヲ追フテ漸次液ガ濃厚トナリ愈々成長ニ連レテ遂ニ

ニ三週日頃ニハ、全ク穀物其儘トナツタ食物ヲ雛ニ食セシメ四週目ニ雛ハ全ク巢立スルノデス此レ迄ハ親鳩ガ育成スルノデ何等人手ヲ要シマセン、而シ其間特ニ親鳩ノ健康ヲ維持スル爲ニ飼與ニハ充分注意シナケレバナラヌ事ハ勿論デス。

四週間ヲ經タル雛鳩ハ、親鳩カラ分離セシメルノデスガ、其時期ハ、巢房内ニ撒布スル小穀物ヲ、自ラ啄ムニ至ル時ニスルノデ、其以前ニ行ツテハ不決果ヲ見マス、分離シタ雛鳩ハ、可及的南面ノ別室ニ收容シ、入口ニ疎眼ヲ有スル金網張ノ籠ヲ設ケテ迅速ナル發育ニ必要ナル、新鮮ノ空氣ト、光線ヲ與ヘテヤルノデス、分離シタ仔鳩ヲ二三日目位ニ檢シテ若シ其嚙囊ガ著シク堅イ時ハ飲水ノ不足シタル結果デスカラ、速ニ水ヲ與ヘネバナリマセンガ、其際除ロニ仔鳩ノ嘴ヲ飲水器中ニ差入レテ鼻腔ガ水ニ入ラス程度ニシテヤルト飲水シマス。

若シ孵化シタ仔鳩ガ八日乃至十五日迄頃ニ發育ガ停止シタ時ニハ、直チニ其原因ヲ確カメル必要ガアルノデス。

此場合ニ翼ノ下頸部、及腹部ニ寄生虫ノ附着スル事が多いノデスカラスカル時ニハ除虫菊粉末（ノミ取粉）ヲ塗布スルト、直チニ驅除出來マス。卵殻ヲ手ヲ以テ破リ出ス事ハ禁物デス、卵内ニテ傷キタル雛ハ、孵化シナイ事ガアリマスシ又傷ク時ニハ卵ヲ出テ大變ナ傷ニナツテ居マス恐レガアリマスカラ注意ガ肝心デス。

六、傳書鳩ノ放鳩ヲ如何ニシテ行ルカ

歸巢性ヲ完全ニ發達セシメルニハ鳩舎附近ノ飛翔ヲ、充分セシメ漸次ニ、距離ヲ遠伸スルノデス、鳩舎附近ノ飛翔ハ云ハバ基本演習トモ云フベキモノデ最も重要ノモノデスカラ、充分ノ注意ガ要リマス。

一、仔鳩ノ訓練 仔鳩ヲ初メテ外出セシメルニハ、早クモ午後三時頃（乃チ日没時ニ間ノナキ時）デ鳩飼者ハ、入口ノ引戸ヲ開イテ仔鳩ガ外出スルモ、舎内ニ留マルモ、隨意ニスルノデス、其シテ舎内ニ引キ寄セル爲メニハ、少量ノ餌ヲ入口ニ撒

布スルノデス、若シ第一日ニ外出シナイ時ニハ其翌日同時刻ニ同一方法ヲ行フノデス、決シテ強制的ニ外出セシメル事ハ不可デス、威壓ヲ受ケテ飛鳩スル仔鳩ハ、冷靜ニ出發点ヲ注意セズシテ恐怖ノ餘リ飛翔スルノデスカラ、失踪スル事が多いノデス、可及的第一回ノ外出ハ降雨ノ際ガ宜シイ。

其シテ第一回ニ都合好ク行クト其後ハ早朝カラ入口ヲ開イテ實施スルノデスガ特ニ此場ノ注意トシテ鳩ニ空腹ヲ感ジサセテ置ク方ガ比較的安全デス、斯クシテ三四日間經續シタル後ハ先ヅ仔鳩ノ教育ガ終ツタノデス、食餌ハ仔鳩ガ全部歸來シテカラ與ヘルノデス。

親鳩ヲ多數所有シテ居ルナラバ次ノ様ナ方法ヲ採ツテモ宜シイ。

仔鳩ヲ七八日間他ノ古鳩ガ自由ニ飛翔セル實況ヲ見得ル一室ニ閉鎖シ、其後他ノ鳩ト合シテ十日間位籠ヲ閉メテ放置スルト、各々巢房ヲ撰擇シテ配偶ヲ求ムルニ至ル時午後ナルベク微雨ノ際ニ鳩舎入口ヲ開ク時ニハ古鳩ガ外出シテ他ノ仔鳩モ

亦此ニ倣フ。

二、親鳩ノ訓練 二年以上五年以下ノ繁殖用鳩ヲ訓練スルニ先立ち、長期間ノ幽閉ヲ行ヒマス、而シテ従前ヨリ慣レタル古鳩ガアル時ニハ、新來ノ繁殖用鳩ヲ配合スルノガ安全デス、大抵ノ場合ニハ、新來鳩ノ一翼ヲ截毛シテ、一定期間ノ飛翔ヲ束縛スルノデス、其方法ハ風切羽五六本ノ細毛ヲ付シテ根ヨリ二三寸ヲ殘シテ截ルノデス、截毛サレタ鳩ハ、脱毛期ニ至ルト、換羽シマスカラ其頃ニハ充分慣レテ居マス、此デ飛翔力ヲ回復シマス。

又目下行ハレテ居ル方法トシテ、截毛シナイデ兩翼ノ最端ヲ糸ニテ結ビ漸次他ノ羽ヲ編ンテ飛翔力ヲ失ハシメテ慣ル、ニ及ビテ糸ヲ除クノデスガ此方法ハ失踪スル事ガアリマス。

右ノ様ニシテ訓練サレタ鳩ハ、四季ヲ通ジテ飛翔訓練ヲ行フノデス、一度籠ヲ開ケバ必ズ鳩ヲ鳩舎外ニ出シテ屋根上ニ止マル怠鳩ニ對シテハ、嚴重ニ監視シテ追飛サス

事ガ必要デス、頑強ニ附近ノ屋根上ニ降下セントスル鳩ガアレバ飽ク迄モ連續シテ飛翔訓練間ハ飛サシメテ、惡習慣ヲ矯正スルノデス、萬一此方法ニ依テ成功シナイ時ハ其鳩ヲ捕ヘテ全々除外スルノデス左様シナイト他ノ鳩モ此ヲ見倣フカラデス、訓練ガ完全ニ出來タ鳩ハ極メテ大ナル圓周ヲ描イテ、飛翔シ遂ニ視界ヲ脱スル様ニナリマス然シ仔鳩ノ飛翔時間ハ最初ハ數分間ニ制限シテ漸次時間ヲ増加スルノデス。

飛翔訓練中ハ鳩飼者ハ、猛鳥ノ襲來ニ注意シ其去來方向ヲ發見スル事ガ必要デス、特ニ山岳地方ニ於ケル鳩舎ニハ、狡猾ナル猛鳥ガ鳩舎附近ニ隠レテ一度鳩ヲ見ルト猛烈ニ此ヲ襲來スル事ガアリマスカラ此注意ガ必要デス。

鳩飼者ハ自己ノ要求ヲ鳩ニ了解セシメル習慣ヲ養成スル爲メニ、同一行爲ヲ連日實行スル事ハ取扱上便利ナル事デ例ヘバ鳩ヲ運動セシメル場合、鳩舎外ニ出スニハ手ヲ打チ鳴ラシ口笛ヲ以テ鳩舎内ニ呼込等ノ事デアリマス。

換羽期ニハ、鳩ノ訓練實施ハ適當ニ制限スル事ガ必要デス。

訓練ノ遠伸ハ、一時ニ遠方ヘ伸ス事ハ一考ヘモノデス、其シテ鳩ノ使用方向ハ常ニ一定方向ニ向テスル事ガ肝心デス、東方ノミニ訓練シタ鳩ヲ西方ニ向ツテ飛バシタ時ニ失踪スル事ガアリマスカラ使用方向ヲ豫メ一定シテ置クノデス、此ガ爲メニ一見シテ方向識別ニ便利ナ様ニ「セルロイド製」ノ足環ヲ装着シマス左様スルト環ノ色別ニ依ツテ所要ノ方向ニ使フ鳩ヲ捕ヘルノニ便利デス色ハ赤、黄、白、紫、緑、藍茶ノ七色アリマスカラ任意ニ方向ヲ決メルト宜シイ又外國製ノ特種ノ色環モアリマス

最初鳩舎外カラ放鳩スルノニ、先ヅ鳩舎ヲ中心ニ東西南北各五百米突ノ地点カラ放鳩シテ見ルノデス、其シテ更ニ千米突（一籽）デ再ビ實施スルノデス、蓋シ此方法ハ將來何レノ方向ニ訓練スル鳩モ皆之ヲ實施シテ其カラ自己ノ希望方向ニ伸遠シテ行クノデスカラ、大切ナ放鳩デス。

伸遠ニ先ツテ基本ノ五百千米ノ訓練ヲ實施シタ後デモ比較的近距离ノ訓練ハ勉メテ距離ノ遠伸方ヲ少クシ却テ遠方ニ至ルニ及ンデ左ノ如キ、割合ニ伸ス事ガ最モ大切デ

ス。

原則トシテ百籽米以上放鳩訓練ニ於テハ各個又ハ小群ノ飛翔ヲ實施シテ著シク時間ヲ要スル者或ハ方向判定ヲ誤リタルモノヲ淘汰シマス、此試験ニ於テノ目的ハ方向判定能力ヲ試験スルモノデス。

更ニ距離ヲ伸シテ三百籽米以上デハ、集團放鳩ヲ實施シ飛翔力並ニ抵抗力上ヨリ淘汰ヲ行フモノデス。

古鳩ノ訓練ノ進度ハ左表ノ様ニスルト宜シイ

第一日	十五籽	
第三日	三十籽	集團放鳩
第六日	六十籽	
第十日	百三十籽	
第十四日	二百五十籽	小群又ハ各個

第二十日……………三百五十粒

第廿八日……………四百五十粒

第卅六日……………五百粒

集團放鳩

右進度表ハ淘汰ノ寛嚴ニ應ジテ適宜斟酌シマス又地形ニ依ツテモ伸遠距離ハ餘程顧慮ヲ要シマス前述ノ五百米一基米ノ放鳩ニ於テモ、外圍ノ山岳又ハ大都市、大森林ニ近い處ハ共ニ適當ノ斟酌ガ必要デス。

(附) 海上訓練 海上デ放鳩訓練スルニハ大体前ニ話シタ要領ヲ根本トシテ實施

スルノデスガ、尙次ノ様ナ方法ヲ探ルト宜シイ。

- 一、陸上ニ於テ行フヨリ以上ニ、頻繁ニ船ニ依ツテ海上ニ出テ行フ事
- 二、陸上ヨリモ距離遠伸ヲ短縮シテ、回数ヲ増ス事。
- 三、天候不良カ又ハ輸送ノ便ガナイ爲ニ、豫定ノ海上放鳩ノ實施ガ出來ヌ際ニハナルベク海岸附近ニテ、近似ノ距離カラ陸上放鳩ヲ行ヒ此ニ代ヘル事等デアリ

マス。

七、傳書鳩ノ注意ハ如何スルカ。

最モ注意ヲ要スルノハ、鳩ニ對シテ飼鳩者ガ、粗暴ノ取扱ヒヲシナイ事デ、此ハ將來鳩ヲ絶對服従スルニハ、尤モ必要ナ事デス、而シ鳩ガ飼鳩者ノ意ヲ介セズ自由ナ行動ヲトル様ナ場合ニハ決シテ些ノ斟酌ヲモシテハイケマセン、デナイト後ニ鳩ニ惡慣例ヲ殘ス事ニナリマスカラ。

鳩ヲ持ツ事ハ何デモナイ様ナ事デスガ、仲々ウマク行カヌノデス、而シ此モ要領ガアルノデ會得サヘシマスレバ、簡單ナ事デス、先ヅ第一ニ鳩ヲ捕ヘテ之ヲ力強く握ラヌ様ニシマス若シ右手ニ鳩ヲ保持スル場合ニハ、兩脚ヲ食指ト中指ノ間ニ挟ムデ、他ノ無名指ト小指ハ單ニ、腹部ニ副ヘルノミデス、拇指ハ背部ニ接セシメテ、拇指ト食指ノ間ニ鳩体ガ來ル様ニシ、羽ハ大羽即チ風切羽ガ、左右重ナラヌ様ニシサヘスレバ宜

シイ其カラ時々、翼ノ点檢が必要デスガ、此モ亦一寸慣レヌト都合良ク翼ガ擴ガラヌノデス、此時ニ中指以下無名指ト小指ノ用ヒ方ガ肝心デス、普通ノ場合前述ノ鳩ノ保持法ヲ左手ヲ以テ行ヒ右手ヲ以テ翼ヲ點檢スルノデスガ、先ヅ右手ノ食指ト拇指トデ翼ノ最外端ヲ挟ミ、中指以下ノ指ニカヲ入レテ、中指ヲ翼ノ肘ノ關節ニ當テ之ヲ軸トシテ、扇狀ニ開クノデス、又左右交互ニ行フテ兩翼ノ点檢ヲ行フ事ハ以上ノ動作ヲ反對ニヤレバ宜シイ。

八、鳩ガ信書ヲ如何シテ運アカ。

此ガ最モ大切ナ用件デ如何ニ鳩ガ使ニ行ツテモ肝心ノ信書ヲ先方ヘ届ケナケレバ何ニモナラスノデスカラ、而シテ信書ヲ鳩ニ附スルニ便ナル爲ニ「アルミニウム製」ノ信書管ト云フモノガアルノデス、結局信書ヲ信書管ニ入レテ輸送スルノデスガ、一體鳩ノ何レノ部分ニ附着スルカト云フニ鳩ノ脚部ニ附着スルノデス、信書管ハ圖ニ就

テ御覽ニナルト瞭然デスカラ附着ノ説明ニ止メマス又信書ハ何ニ認メルノガ良イカト云フト此又紙質ノ強靱ナ極メテ薄イ紙デ作ラレテ其レニ所要ノ記入ヲスル様ニ出來テ居マス。附圖ヲ見ラレルト能ク分リマス。

傳書鳩ヲ使用スルニ先ヅ、信書ヲ認メ終ツタナラバ、信書ヲ最モ容積少ク卷イテ、最後ニ齒ヲ以テ嚙ミ、緊縮セシメテカラ信書管ノ蓋ニ挿入シ蓋ヲ管ニ挿入シテ管ニ附屬ノ二本ノアルミ製帶ヲ豫メ開イテ置イテ此ヲ鳩ノ脚ニ着ケルノデス其際鳩ノ保持法ハ前述ノ行爲ヲ行ヘバ宜シイ附ケ終ツタナラバ靜カニ鳩ヲ飛バヌノデス、急イデ飛バヌ爲ニ苦心シテ附着シタ大切ノ信書管ガ手ニ引懸ツテ出發ノ際ニ墜スカ又途中紛失スル虞レガアリマス、其シテ信書管ヲ附シタ鳩ガ鳩舎ヘ歸ツテ來タ時ニモヤハリ靜カニ之ヲ呼込ンデ後靜ニ鳩ヲ捕ヘテ信書管ヲ取外スノデス。

九、如何シテ鳩ヲ運搬スルカ。

一時ニ大數ノ鳩ヲ運搬セムトスルニハ大輸送籠小輸送籠ト云フ大量ヲ收容シ得ル籠ヲ用ヒマスガ登山等ニ或ハ近クノ旅行ニハ、次ノ様ナ籠ヲ用フルト非常ニ便利デス、原則トシテ運搬中ト雖モ飲水ヲ與フルト良イノデスガ、旅行ノ種類ニ依ツテ、其ンナ事ガ出來ヌ事モアリマス、例ヘバ登山ノ場合等デスカル時ニハ到着地点ニ達シテ暫時休憩時ヲ與ヘマス其間ニ飲水器ニ水ヲ入レテ飲マスト宜シイ、左様シテ前述ノ順序ニ依リ飛翔セシメルノデス。(丁)

附 錄

大正十年中大阪好鳩會ニ於テ各地競飛實施ノ成績ヲ揚ゲテ聊カ參考ニ記シマス

放鳩地	着地	發時間	着時間	經過時間	距離
關西線 大河原	大阪	二月一日 正午	午後一時五分	一時間五分	四十一哩
四日市	同	二月十五日 午前八時	午前十時十分	二時間十分	八十五哩
東海道線 名古屋	同	三月一日 午前八時	翌午前九時卅一分	廿五時卅一分	百十哩(雨)
岡崎	同	三月十日 午時七時三十分	午前十時五十分	三時間二十分	百卅五哩
豊橋	同	三月廿日 午前七時	翌午前七時卅分	二十四時卅分	百六十哩(雨)
濱松	同	四月一日 午前七時	午後〇時六分	五時間六分	百八十九哩
静岡	同	四月十日 午前七時十五分	午後一時五十三分	六時三十八分	二百卅六哩

三島——同	四月廿日 午前七時三十分	翌午後二時九分	三十時九分	二百七十五哩(雨)
國府津——同	五月十日 午前七時	午前十一時廿八分	四時廿八分	三百十八哩
東京——同	五月廿六日 午前六時	翌午前九時三十分	二十七時卅分	三百五十六哩(曇)

同年ニ又西方宮嶋迄競争ノ成績ハ次ノ様デシタ

姫路——大阪	六月三日 午前 十一時四十五分	午後一時十五分	一時卅分	六十哩
瀬戸——同	六月十六日 午前六時	午前十時四十六分	四時四十六分	百十哩(曇)
玉嶋——同	七月四日 午前六時三十分	午前十時三十分	四時間	百三十哩
糸崎——同	七月十五日 午前六時	午前十時廿四分	四時廿四分	百六十五哩
宮嶋——同	八月一日 午前七時十六分	午後五時六分	九時四十四分	二百廿三哩(曇)

右表ニ就テ察スルニ曇、雨ノ時ノ方向判定ハ餘程鳩ニトツテ困難ナルガ故ニカ、ル際ノ放鳩ハ事情ガ許セバ中止スルヲ可トス

大正十一年中大阪好鳩會ニ於テ各地競翔實施ノ成績次ノ如シ

放鳩地	到着地	經過時間	里程	事項
名古屋	大阪	二時間十九分	百十哩	
豊橋	同	四時間卅二分	百六十哩	(曇)
濱松	同	五時間四十六分	百八十九哩	(曇)
静岡	同	五時間卅八分	二百卅五哩	
沼津	同	五時間十一分	二百六十五哩	
國府津	同	六時間五分	三百十八哩	
東京	同	六時間廿一分	三百五十六哩	

本表ト前年ノ表ト比較シテ東京大阪間ノ飛翔ニ著シキ差ガ出來タノハ全ク愛鳩家ガ鳩改良ニ苦心シ優良種ヲ得タルト又其訓練方法ノ實施ニ於テ修養ヲナシタル結果デアルト思フノデス。

一〇、然ラバ如何ナ鳩ガ良イノカ。

簡單ニ云フナラバ、次ノ様デス。

- 一、確實ニ而カモ敏速ニ方向ヲ判定スルモノ。
- 二、飛翔力飽ク迄強ク、且ツ速ク、而カモ遠距離ニ於テモ持久力アルモノ。
- 三、絶對的歸巢性ヲ有スルモノ。

以上三項デアツテ第二項ノ場合ノ鳩ナレバ體質頑健ナル事ハ説ク迄モナイ事デアリマス。細部ニ就テ云ヘバ體質ガ均等ニ發達セルモノガ最モ良イノデ頭部ハ種類ニ依ツテ異ルケレドモ一般ニ適當ノ圓形ヲナシ額ノ廣キ事嘴ハ適度ノ長サヲ有シテ而カモ頭部ニ深く穿入シテ居ル事ガ必要デアル鼻瘤ノ大小ハ鳩種ニ依ツテ一概ニ云ヘナイガ本書デ説ク佛蘭西種鳩デハ餘リ過大デナイ方ガ良イ眼ハ鋭ク活動ノ敏速ナノガ良イトシテアリマス。色ハ所謂ユル鮮紅色ガ純粹デアルカラ此モ茶眼ヤ、黒、黄眼ハ良クナイノ

デアル。

頸部ハ附圖ニ示ス様ニ長クナク短カクナク而カモ肩トノ接續部ガ適當ニ着イテイルノガ良イノデアル、胸ハ幅廣ク胸骨(キール)ガ適當ノ丸味ヲ以ツテ突出シ眞直デナクテハナラヌ翼ハ頑丈ニ肩ニ着セル事ハ圖ノ通りデ羽毛ノ重ナリガ密デアル方ガ良イノデアル尾羽翼長ハ共ニ圖ニ制限セラレテアル様ニ適長デナケレバイケナイ。一般ニ羽毛ニ觸ル時ハ粉ガ衣類ヤ手ニ附着スル位ニ粉ヲ有スルモノガ良イ。

脚部モ適當ノ長サヲ有スルモノ、決シテ長過ギ短カ過ギルノハヨクナイ色ハ鮮紅デアル事、何時モ嘴ノ色ト爪ノ色ト同一ノ事鳩体ノ適量ハ雄デ四百瓦カラ四百五十瓦位雌ハ三百七八十瓦カラ四百瓦位ガ適當デアル。

參考ノ爲メニ大正十年七月十一日ヨリ三日間海軍横須賀航空隊ガ東京府下八丈島大賀郷村カラ放鳩ヲ實施シタ成績ヲ次ニ記シテミマセウ。

放鳩地 到着地 經過時間

東京府下八丈島大賀郷村	横須賀海軍航空隊鳩舎	三時廿分	六羽
同	同	四時卅分	九羽
同	同	五時卅分	九羽
同	同	九時廿分	一羽
同	同	十六時十五分	一羽
同	同	廿六時四十分	一羽
同	同	廿九時四十分	一羽
失踪			一羽
合計			二十九羽

研究所ノ仕事

傳書鳩研究所ハ鳩ニ就イテ色々ナ試験ヲヤツテ居マス。
鳩ニ關スル内外書籍雜誌ノ出版豫約、取次、並ニ各種器具ノ輸入。

大正十一年七月二十五日印刷
大正十一年八月一日發行

定價 金四拾錢

傳書鳩ノ話
不許複製

著者兼
發行者

樁 本 莊 一

大阪市外玉出町中道通六三〇

印刷者

遠 藤 富 太 郎

大阪市西區阿波堀通二丁目三番地

印刷所

遠 藤 印 刷 所

大阪市西區阿波堀通二丁目三番地

大阪市外玉出町中道通六三〇

發行所

關西傳書鳩研究所

發賣所

文翫堂書店

東京市神田區表神保町十番地
大阪市東區糸屋町二丁目
振替大阪一六二六〇番

393

388

終